第4回「医用画像システム開発論文」特集号(2015年3月号)論文募集

MIT 誌ではこれまで「医用画像システム開発論文」特集号を年に 1 回の頻度で 3 回発行しましたが，多数の投稿があり，医用画像領域におけるシステム開発研究の重要性を改めて認識するに至りました．そこで，2015 年度 3 月号掲載に向けて，第 4 回の医用画像システム開発論文特集号を企画致します．これを機会に，是非論文投稿をご検討下さい．

なお，過去の「医用画像システム開発論文」特集号に投稿された幾つかの論文では，開発したシステムの新規性や有効性への記述が不十分なものが散見されました．システム開発論文も通常の論文と同様の基準で査読が行われます．執筆では，以下の「システム開発論文 執筆上の指針」にある(3), (4)について特に留意して下さい．

医用画像システム開発論文の趣旨：

従来，MIT 誌に投稿された研究論文は，アカデミック(あるいは学術的)な意味での新規性を最重要点として評価されてきました．反面，ある工学的原理を臨床に役立つシステムとして実用化あるいは商用化するためには，斬新なアイデアや技術革新とともに，検証のための長い年月と多大な労力を要しますが，その重要性は，「学術上の新規性が無い」という一言の下に捨象されてきています．しかしながら，広く医用画像工学の発展を標榜する当学会としては，これまで軽視されてきた臨床上重要なシステム開発へも投稿分野のカテゴリーを拡げ，その論文としての価値を新たな観点から評価し，掲載への道を拓き，もって更なる MIT 誌の充実を図るため，従来の投稿規定を一部改編します．

なお，ここで「医用画像システム」には，ハードウェアとソフトウェアの別は問わず，企業で開発された（商用化された）画像化システムはもちろんのこと，大学・公立研究機関で開発された CAD・CAS システムや GPU を用いた画像処理システム，あるいは画像通信・蓄積システム，放射線治療システムなども範疇に含まれます．たとえ既存の技術の組み合わせによりシステムが構築されていても，組み合わせや設計コンセプトの新しさ，出来上がったシステム全体に対する新規性，得られた知見の臨床もしくは画像医学研究上の有効性を査読の評価の対象とします．

本企画では，医用画像に係るさまざまなシステム開発に関する論文を幅広く募集いたします．とくに，企業で基礎技術を実用化まで進めた事例，大学・研究機関や産学連携で先端技術を臨床に適用しようとする応用研究事例などを幅広く募集いたしますので，多くの皆様の投稿をお待ちしております．なお，ご投稿いただいた論文は通常の査読プロセスを経て採否が決定されます．やむをえず採録の決定に時間がかかり，特集号の掲載に間に合わない場合は，通常号に掲載させていただきますので，あらかじめご了承ください．

「システム開発論文」執筆上の指針：

（１）了解性・信頼性

システムの設計・開発に至った背景・経緯，開発の環境条件，臨床上の有用性，用いた工学技術とその効果，工学的な設計思想を明確に記述する．

（２）従来システムの調査

関連する従来システムの調査を十分に行い，技術の潮流の中での設計・開発システムの位置づけを明確にする．

（３）医用画像システムとしての新規性

必ずしも全く新たに研究開発した技術である必要はない．既存技術の組み合わせや統合であっても，組み合わせの新しさ，システム全体での新しさ，設計コンセプトの新しさ，設計・開発されたシステムで得られた知見の新しさ，などを新規性の対象とする．

（４）有効性

開発システムが従来システムと比べて，総合的あるいは部分的に優れていることを可能な限り客観的に主張する．同等の先行システムとの実際の比較は必須ではないが，比較を実施していない場合には，先行研究への引用を通しての客観的な比較が伴っていなければならない．

（５）提案システムの名称と商品名

提案するシステムが製品化されている場合は，その製品名で提案システムを参照しても問題は無い．しかし，単なる製品紹介や過剰な宣伝にならないように留意すること．

掲載号：Vol.33, No.2（2015年3月）
投稿締切：2014年10月31日（金）
投稿方法：通常のMIT誌への論文投稿に準ずる．ただし，「医用画像システム開発論文」特集号への投稿であることを明示する．投稿に際しては改訂投稿規定を参照のこと．

2014年6月27日
編集委員会(担当：本谷，杉本)
問い合わせ先：編集部（mit-edit@academic-j.co.jp）